# TAC 通信

02.06.

担い手農家・農業法人・集落営農組織むけ情報誌
お時間がある時にご覧いただきますようお願い申し上げます。

JA北びわこ
営農振興課
TEL　78－2415

Vol. 5

## 米穀情報

JA北びわこにて米の出荷契約(主食用米)をされ、予約金をお申込みされた農家組合員の皆様には**予約金(3,000円/俵)を　6/23（火）に振込予定です。**

また、ご希望に応じて庭先集荷にも伺いますので、JAへの米の出荷をお願いします。

**2年産も農家手取向上のため、JAは販売努力を致します。**
**出荷契約数量に応じた米の出荷をお願い致します。**

## 令和2年産米の出荷に向けて

令和2年産米の出荷に向けて、JAでは下記の方法にて
米の出荷作業労力の軽減をお手伝いします。

・個人調製米の庭先集荷
　お電話にて作業所等へ米の集荷に伺います。

・個人調製フレコン出荷（コシヒカリプレミア米・JA米限定）
　フレコンでの出荷により、作業の軽減ができます
　※計量機等の設備が必要となります。

今年度より新設！

・乾燥調製施設への乾籾出荷
　自家乾燥した籾を低料金にて施設で荷受けします。
　籾摺り・籾殻捨て等の作業から解放されます。
　　※利用料金　乾籾60kgあたり600円（税別）

ご利用につきましては、事前のお申込みが必要となります。
詳しくはTAC・営農指導員へお問い合わせ下さい。

# 水稲情報

## ◆中干しの時期です

写真：還元障害が出ている圃場
下葉が黄色、株基が黒い、株が細い

連休植えのほ場でまだ中干しをしていないほ場は、**早急に落水し中干しを開始してください。**また、５月下旬田植えのほ場でも、田植え後1か月程経過しています。管内のほ場を見ていると、**5月下旬移植ほ場でも還元障害で生育が停滞していると思われる圃場が見受けられます。早めの中干しをして、生育回復を図って下さい。**

※環境保全型農業直接支払交付金制度で「長期中干し」技術（⑧IPMの実施、⑪緩効性肥料利用＋長期中干し）を選択されている場合、原則10aに1本以上の溝切りを行い、14日以上の中干しを実施して下さい。

## ◆いもち病に注意！

6月10日の梅雨入り以降、雨がよく降ります。**気温が低く雨が多い時はいもち病が発生しやすくなります。**いもち病の出やすいほ場等では、箱施用剤を入れていてもいもち病の防除をするようにして下さい。また、**ほ場内に置き苗があると、いもち病の発生原因となるので早急に処分して下さい。**

| | 農薬名 | 使用時期 |
|---|---|---|
| 予防剤 | コラトップ1キロ粒剤12 | 葉いもち：初発10日前～初発時<br>穂いもち：出穂30日～5日前 |
| | コラトップジャンボP | 葉いもち：初発20日前～初発時<br>穂いもち：出穂30日～5日前 |
| 治療剤 | ブラシン粉剤DL | 収穫7日前まで |

## ◆穂肥の適期施用について

穂肥時期の判断は稲の幼穂長と、葉色を確認することが重要！
コシヒカリは、穂肥の施用が早すぎると下位節間が伸びて倒伏しやすくなります。
穂肥の多量施用や施用が遅れると玄米中のタンパク含量が多くなり、食味が悪くなります。
なお、有機質の肥料は化成肥料より３～５日程度早めに施用していただく必要があります

| 品種名 | 基準名 | 元肥量<br>地帯 | 第1回(7月10日頃)<br>施用時期<br>施用資材 | 第1回(7月10日頃)<br>チッソ成分量<br>(資材施用量) | 第2回(7月20日頃)<br>施用時期<br>施用資材 | 第2回(7月20日頃)<br>チッソ成分量<br>(資材施用量) | 穂肥施用時幼穂長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| コシヒカリ | プレミア米 | 60kg | プレミア専用肥料施用のため不要 | | | | |
| | | 40kg | 出穂２３日前<br>滋賀こだわり<br>穂肥ハーフコート<br>306 | 2.6kg<br>(20kg) | なし | | 2mm |
| | JA米<br>一般米 | 平坦地 | 出穂１８日前<br>化成肥料201 | 2kg<br>(10kg) | 出穂４日前<br>化成肥料201 | 2kg<br>(10kg) | 10mm |
| | | 山間地 | 出穂１８日前<br>化成肥料201 | 2kg<br>(10kg) | 出穂１１日前<br>化成肥料201 | 2kg<br>(10kg) | |

幼穂2mm

幼穂10mm

# 大豆栽培に向けて～大麦栽培のメリットはここにもあります！～

## 適期播種で大豆収量増　～慣行栽培で6月20日頃から播種を！～

大麦は収穫が早いため、大豆播種準備に十分な時間が持てます。**大豆は初期生育量の確保により大幅な収量増が見込めるため、遅れずに適期播種を実践してください。**

大豆（オオツル）の播種適期は6月20日頃～、密植栽培は7月3日頃から播種できるように、圃場準備を行いましょう。

**播種時期前半の播種は、播種下限量、播種時期後半の播種は播種上限量で播種しましょう。**

| 品種・栽培体系 | オオツル（慣行） | オオツル（密植） |
|---|---|---|
| 播種時期 | 6月20日～25日頃 | 7月3日～8日頃 |
| 播種量 | 5～6kg/10a | 8～10kg/10a |

# 大豆栽培に向けて～圃場準備編～

### ☆土づくりの実践（有機物の施用と酸度矯正）

水田転作での大豆作付は、連作の有無に関わらず、作付のたびに地力が消耗し、収量の減少や品質低下が問題となります。**土壌中に有機物が多いと根粒菌の着生が増加し、収量・品質が向上しやすくなりますので、堆肥等の有機物を施用し、地力を向上させる事が重要です。**

### ☆土づくりの実践（酸度矯正）

大豆の生育に適した土壌pHは、6.0～6.5です。石灰質の土壌改良資材を投入し、生育に最適な土壌環境にします。併せて、大豆の生育（莢の伸長、子実の肥大）に必要なリン酸資材の施用も行います。↓↓↓↓↓↓

| 資材名 | 施用量 | 備考 |
|---|---|---|
| 新ふりかけ堆肥エコ | 60～100kg | 濃縮堆肥成分。散布量は通常堆肥の約1/10！ |
| セルカオイスターミネラル | 100kg | けい酸資材と有機石灰（セルカ）配合！ |
| 粒状ハレー28号 | 100kg | 苦土石灰と重焼リンを配合 |
| 粒状苦土石灰 | 100kg | 土壌の酸度矯正に効果的 |

## 種子消毒の実践で初期防除を確実に

大豆の紫斑病・鳥害対策に種子消毒を実施します。近年、種子消毒剤にクルーザーMAXXを使用する事で、苗立ち率に格段の向上が見受けられます。

## 土づくりには「新ふりかけ堆肥eco」（濃縮堆肥）

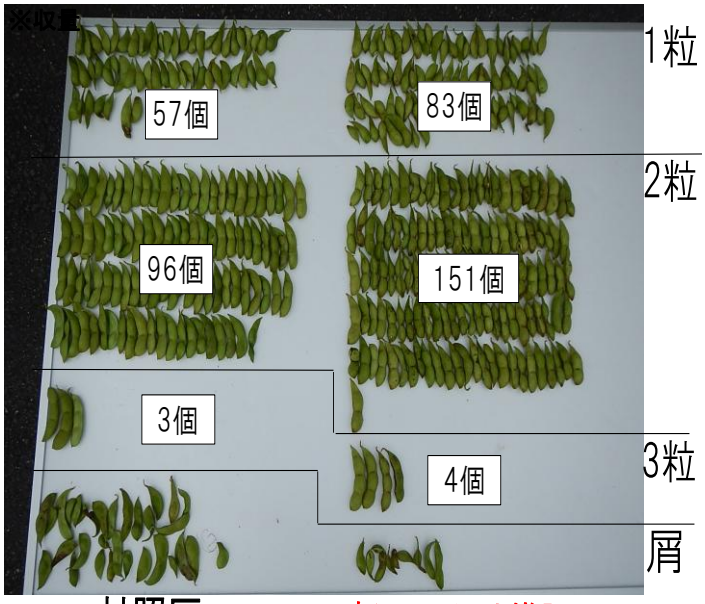
「新ふりかけ堆肥eco」はラクラクに土づくりができる、粒状の濃縮堆肥です。
土壌環境を改善して、大豆の収量増加、品質向上が期待できます。

【施用基準量：60kg～100kg/10a】

〇特徴
★腐植酸（堆肥のエキス）が通常堆肥の約10倍
★散布量は通常堆肥の約1/10
★団粒構造形成と保肥力アップに期待

（右写真→）
「新ふりかけ堆肥eco」を施用すると、着莢数および粒数が増加し、収量増加となった。

＜新ふりかけ堆肥eco施用試験結果（大豆）＞




対照区　　新ふりかけ堆肥eco

### 排水対策の徹底（排水溝の再点検）

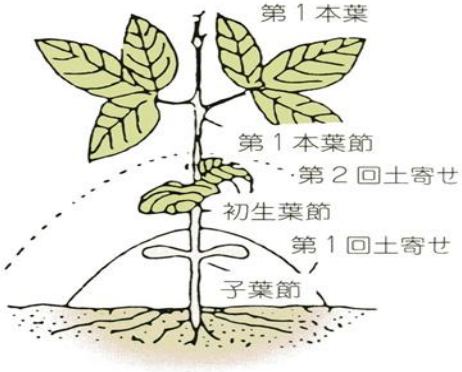
大豆は湿害により発芽不良、生育不良を起こすため、排水対策が最も重要となります。
**麦作跡の溝を切りなおすなどして、排水対策の向上に努めましょう。**

## 中耕・培土について

**中耕・培土は雑草防除や倒伏防止だけでなく、大豆の生育を促進させる重要な作業です。作業が遅れ開花期近くになると根を傷めるため、生育初期（播種後20～35日頃）に必ず2回行います。**

第１回目
本葉２～３枚の頃に子葉が隠れる程度の位置まで行います。
第２回目
本葉4～5枚の頃に初生葉が隠れる程度の位置まで行います。

写真：中耕・培土作業



## ○JA北びわこ　安全安心な農産物づくり運動生産者研修会

※例年開催しております安全安心な農産物づくり運動生産者研修会について、本年は新型コロナウイルス感染予防のための十分な対策をとる事が難しいため、中止とさせていただきます。

環境保全型農業直接支払交付金申請者は、「国際水準GAP研修会への参加」が必須要件のため、以下のとおり対応させていただきます。

- **昨年度研修を受けられた方は本年は受けなくても交付対象となります。**
- **昨年度研修を受けておられない方、もしくはインターネット研修をされた方は、本年中に書面による研修もしくはインターネット研修を受けていただく必要があります。**
- **書面による研修については後日ご案内致しますが、有効期限はインターネット講習と同じく1年となりますのでご注意下さい。**

## ハウス（水稲育苗未利用期間）での養液潅注栽培

○JA全農式トロ箱養液栽培システム（うぃずOne）

「うぃずOne」は「水稲育苗ハウスや遊休ハウスなどを有効活用」しながら、「栽培管理が容易」で、なおかつ「安価な栽培システム」をつくる事を目的にJA全農が開発した養液栽培システムです。

うぃずOne栽培にご興味のある方はTAC担当までご連絡下さい。

小谷城スマートICハウスにて、うぃずOneメロンを栽培中です。大分大きくなってきました。収穫は7月10日頃から開始し、ゆめまる館等で販売予定です。

6月10日現在

# 夏の農作業で心がけること

## 1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

☀ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

## 2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

☀ のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう

☀ 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1Lの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう

※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。

☀ 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう

## 3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

☀ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう

## 4. 単独作業を避けましょう

☀ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう

## 5. 高温多湿の環境を避けましょう

☀ 暑さ指数（WBGT）計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。

☀ 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう

☀ 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数（WBGT）が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう